

## 第二部：アジアのさまざまな声 — 交差する多様な表現

1998年11月3日（火・祝）・末川記念会館ホール

この世界の重層的な抑圧を多様な方向から問いなおすために、異なる民族や階級に属する女性たちの、複数の世界の境界に生きる生を見つめ直し、女たちの「計り知れない力」を掘り起こす必要があるだろう。

著作や映像のなかで、差異を前景化し、「差異の概念を創造的行為に役立つものとして」用いる可能性を探ろうとしているトリン T.ミンハさんを中心に、アジアのさまざまな声 — 交差する多様な表現について論議を深めたい。

### 発話・コーディネーター：

池内靖子（立命館大学）「ポストコロニアリティとジェンダー  
— ビョン・ヨンジュとトリン T.ミンハの映像テキストから」

### ゲスト・スピーカー：

トリン T.ミンハ（カリフォルニア大学バークレー校）‘Eye/Ear, Boundary Shifter’

### パネラー：

鄭暎恵（広島修道大学）「日本におけるマルチカルチュラルイズムとエスニック・アイデンティティ」

岡真理（東京外国語大学非常勤講師）「聴く／訊く、あるいは、聴きとるということについて」

レベッカ・ジェニスン（京都精華大学）「記憶・『歴史』・まなざし — ヨン・スーン・ミンの  
『決定的な瞬間』」

### コメンテーター：

李静和（成蹊大学）／渡辺公三（立命館大学）

\*\*\*\*\*

林淑美（日本近代文学研究）／今福龍太（札幌大学）／姜尚中（東京大学情報文化研究所）／ギャン・プラカーシュ（プリンストン大学）／ミリアム・シルバーバーグ（UCLA）